

研究・調査報告書

報告書番号	担当
370	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）	
Drinking habits and prevalence of heavy drinking among occupational healthcare patients 職場の診療に通院する患者における飲酒習慣と多量飲酒の有病率について	
執筆者	
Kaarne T, Aalto M, Kuokkanene M, Seppa K.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Scan J Prim Health Care. 2009;27:53-57	
キーワード	
勤労者、飲酒習慣、多量飲酒、有病率	
要 旨	
目的： 職場の診療所に通院する患者における多量飲酒の有病率をもとめる。	
方法： 六箇所の職場の診療所に通院する患者 757 人を対象に、Alcohol Use Disorders Identification Test (AUDIT)の質問票と健康に関連する質問による調査を行った。AUDIT 質問票のスコアが男性は 10 点以上、女性は 8 点以上の者を多量飲酒と定義した。	
結果： 多量飲酒は男性では 119 人（24%）、女性 48 人（13%）であった。多量飲酒の臨床的特徴は男女ともに喫煙習慣のみであった。	
結論： 職場の診療所に通院する患者における多量飲酒の頻度は多い。多量飲酒者は飲酒以外の臨床的特徴をもたず、発見が困難である。職場における健康管理面で、多量飲酒者を発見するためのスクリーニングが必要である。	